

第11回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2021年（令和3年）8月23日（月）13時00分～15時00分
場所：福山市役所 301会議室（オンライン開催）



今回のデザイン会議は、駅前広場の環境空間の使い方の方向性を検討するため、「福山駅前広場の環境空間のイメージを共有しよう」を議題として、「福山駅前広場でどのような活動が行われるとよいか」について議論を行いました。

駅前広場計画の検討に当たっては、駅前広場を使う人の意見を計画に結びつけていくプロセスが大事になります。今後、市民や事業者、専門家などのご意見を踏まえながら、駅前広場のあり方を検討し、皆様に愛される駅前広場をめざしていきたいと思います。

駅前広場での活動のイメージ

1 ちょっとした合間の時間を過ごす

- 公共交通の待ち時間や不意にできた合間の時間を過ごせる場所が必要。そのような時間を駅前広場で飲食を楽しんだり、リラックスしたりしながら、時間を過ごすことができると良い。

2 ゆっくりとくつろぐ

- 福山市内にはゆっくりくつろげる場所があるようで少ない。季節感を感じながらゆっくり過ごしたり、伏見町などの広場周辺の店舗からテイクアウトをして、広場で食事を楽しめると良い。

3 散歩をする

- 駅周辺に住む年配の方々には、散歩をしたいというニーズがあるのではないかと。また、散歩をする際には近所の人達と交流をしたいというニーズもあると思う。駅前広場にベンチなどがあれば、少し座って語らうこともできるだろう。

4 一人で行動する

- 近年、圧倒的に一人で行動する人が増えてきている。コロナ禍が影響しているかもしれないが、現代の人のマインドを考えると、パーソナルな空間が求められていると思う。秘匿性を作りながら、個人がたくさん集積することによってにぎわいが生まれるような社会が生まれるかもしれない。

5 スポーツを見たり体験する

- 競馬場跡地をアウトドアスポーツのメッカにしようと考えている。駅前でスポーツイベントが行われれば、駅前と競馬場跡地が繋がると思う。

6 内外の人と交流する

- 福山には多くの人が出張などで訪れている。外来者と地元の人が飲食などを通して交流できると良い。
- 近年、外国人居住者が増えており、週末には駅前に外国人が集まっているので、多文化共生に資するような活動ができると良い。

7 まちの情報を取得・発信する

- 通勤通学者や出張客はちょっとした合間の時間を楽しみたいというニーズがある。駅前ではまちの新鮮な情報が発信されていて、楽しいイベントや面白い店舗があることを伝えることができれば、駅前から駅周辺に誘っていくことができる。
- 市の南部や北部などの周辺地域の方々も駅前に出てきて、マルシェやイベントを行い、周辺地域の情報を駅前で発信するような活動があれば、駅前と周辺地域がつながるきっかけになる。
- 地域の特産品がどうやってできているのかを駅前広場で地元の人を作ったりするプロセスが見えると、市外の人には発見があり、地元の人にも嬉しいと思う。

8 常に新しい情報に出会える

- 駅前広場で色々なことを試してみたり、実験してみたりなど「まるごと実験広場」というコンセプトで括っていくことで、常に新しい情報が発信される場所になるのではないかと。
- 予測できるものだけでは結局その場所には行かなくなってしまう。格好良く働く大人や楽しそうに過ごす若者、異業種・異文化に出会えるなど、思いがけないことに出会える場所になると良いだろう。

（次頁に続く）

駅前広場での活動のイメージ（続き）

9 子どもたちが遊ぶ

- ・駅前には子ども達が集える場所が少ないので、子ども達が遊べるような場所ができて、子ども達に来てもらえるような催しやイベントが開催されると良い。
- ・駅前にはファミリー層が日常的にくつろげる場所がない。子ども達が駅前広場で遊んでいる間に、親たちが飲食を楽しんだりしながら時間を過ごすことができると良い。

10 ロマンسを感じる

- ・地方のまちには都会みたいにコンテンツがたくさんあるわけではないので、デートで行く場所が無く、うろうろしたりする。困った時に駅前広場でコーヒーを飲みながらゆっくり話ができると良い。
- ・公共交通で訪れる場合、駅は出会いや別れの場所になる。駅前広場で愛を語ったり、告白をしたり、駅前広場がみんなの思い出の場所になっていくと良いだろう。

11 イベントや祭りに参加する

- ・駅前でイベントを実施した際、多くの方が来場され、駅前で常時イベントを開催して欲しいという声が多数あったため、駅前広場でのイベントの需要はあるだろう。
- ・駅前で今一番人が集まっているのは、臨時開設しているPCR検査場。その時々の特ピックスに合わせた利用ができると良い。

活動を検討する際に大事になること

1 簡単に駅前広場を使える仕組みづくり

- ・エリアマネジメント組織などが取り仕切って、一括して申請することで、市民の方々が簡単に使える仕組みが必要だ。

2 天候によらず使いやすいこと

- ・半分オープンエアの巨大なアトリウムみたいな施設があれば、雨天であっても、そこで人が集まったり、様々な活動ができる。

3 徐々に活動を広げ、整備を進めていく

- ・めざす駅前広場はすぐには完成しない。時間をかけながら、徐々に活動内容を広げていき、それに伴って、ニーズを踏まえながら、施設の整備も進めていっても良いと思う。
- ・今の社会状況の中で作り込み過ぎたり、固定しすぎるのはリスクがある。なるべく可変性を持ちながら、フレキシブルなスペースをどうつくるかがポイントになる。「丸ごと実験広場」をコンセプトテーマにして、駅前広場でいろいろな実験ができるようにすると良いだろう。
- ・どのような活動でも行いやすい広場にすることが大事。色々な活動を見越して、電源や上水などの施設が整備されていると良い。
- ・従来の考え方に加えて、ちょっと近未来を予測した形で検討することが必要だ。

4 市民に愛され、市民が誇りに感じられる駅前にしていく

- ・駅前広場が愛されることを大切にすべき。駅前広場の利用者が交通サービスの受益者だけでは、時間とともに駅前広場の価値が低下してしまう。駅前広場の価値を維持・向上させていくためには、福山らしさを大切にしながら、利用者や地域の人達と共に、この場所を育てていくことが重要だ。
- ・駅前広場に当事者として、参画する人の種類を増やす。多くなれば、結果的に仲間や見に来る人も増え、交通需要も増えていく好循環が生まれる。

5 福山城のある北側と福山駅の南側を一体として考えていく

- ・駅の南北の広場を一つの広場として考えた方が良い。南北の広場をひと繋ぎの広場にして、どのような空間を作っていくかを検討するべき。
- ・連立立体交差事業によって、駅の南北を自由に抜けることができる状況を整えておきながら、その機能がほとんど発揮できていない。駅周辺全体で南北の一体化を図ることを検討するべき。